

機関リポジトリを持たない大学は
社会への説明責任を果たせない

やがて現在のホームページと同様
大学にとって必須のものとなる



学術機関リポジトリ — 図書館の役割 —

名古屋大学附属図書館長 伊藤 義人
第2回東海地区CSI事業報告会
大学における学術機関リポジトリ構築に向けて

2006/11/8



この講演の内容

- ◆ 名古屋大学学術機関リポジトリ
=NAGOYA Repositoryの現状
- ◆ 学内の位置付け
- ◆ 学内関係組織との連携
- ◆ 広報活動と問題点
- ◆ 研究者協力コミュニティの形成
- ◆ 大学間連携



名古屋大学学術機関リポジトリの現状

◆ NAGOYA Repository収録状況

学術雑誌論文	334	図書	8
学位論文	317	会議発表資料	49
紀要論文	3,477	教材	49
貴重書	29,889	Webサイト情報 資源	1,937

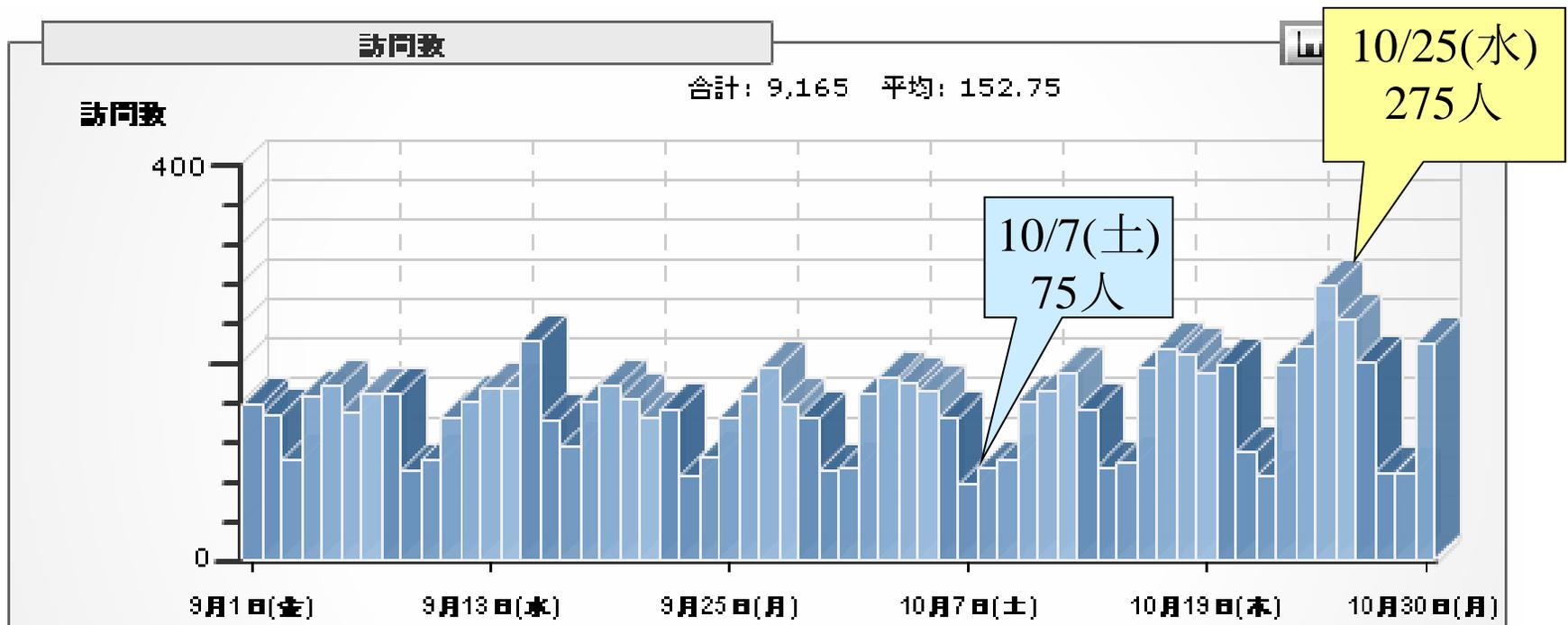
2006年10月末現在

NAGOYA Repository 利用状況

◆ 訪問数

1日平均153人

最多:275人 最少:75人

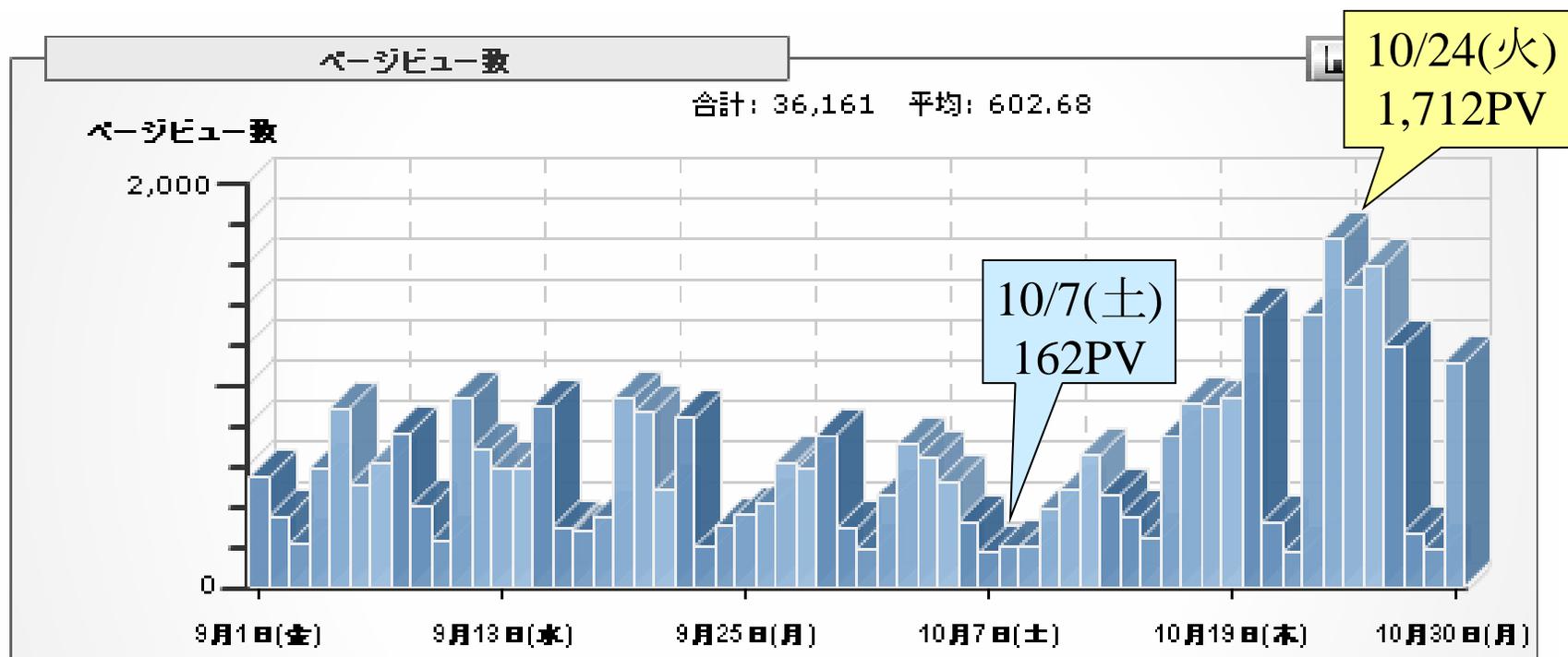


NAGOYA Repository 利用状況

◆ ページビュー数

1日平均603ページ閲覧

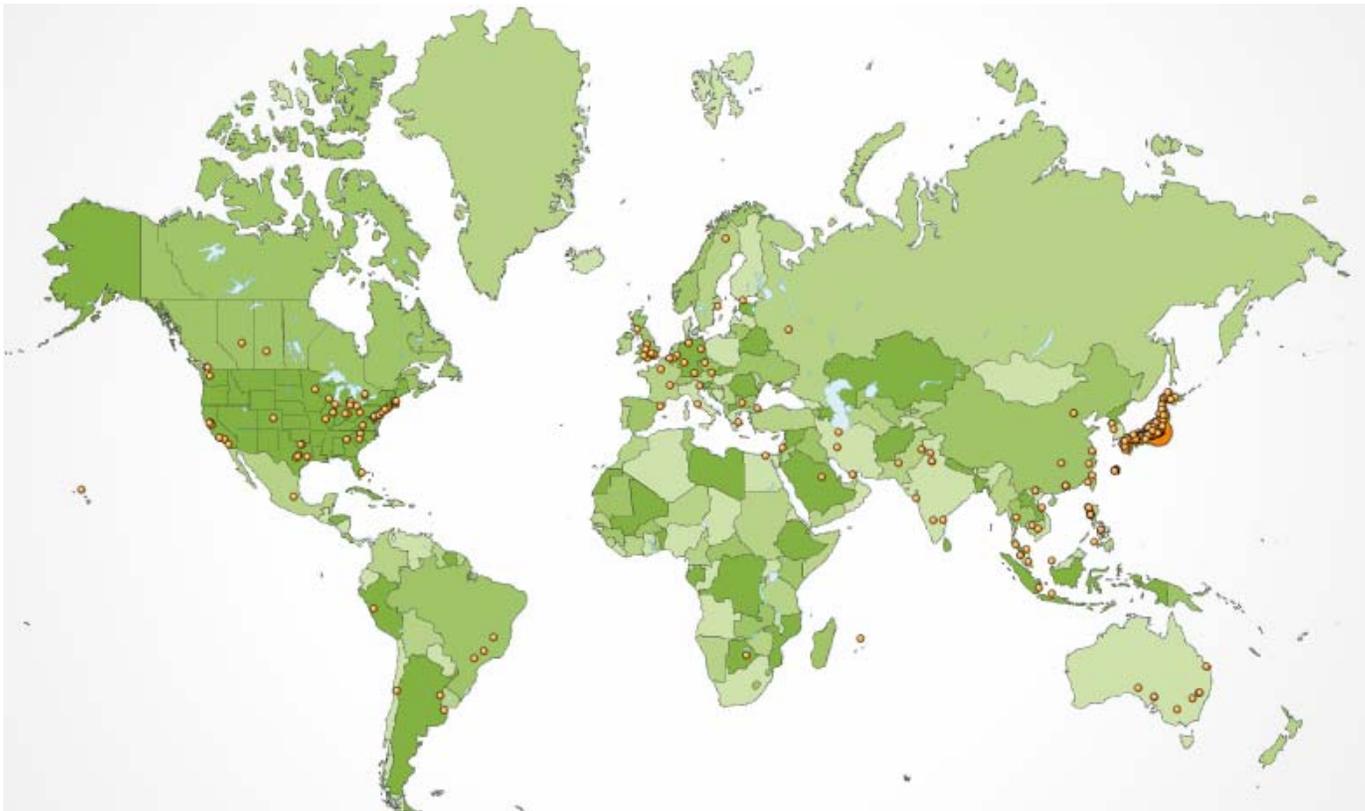
最多:1,712ページ 最少:162ページ



NAGOYA Repository 利用状況

◆ 訪問者数・地域

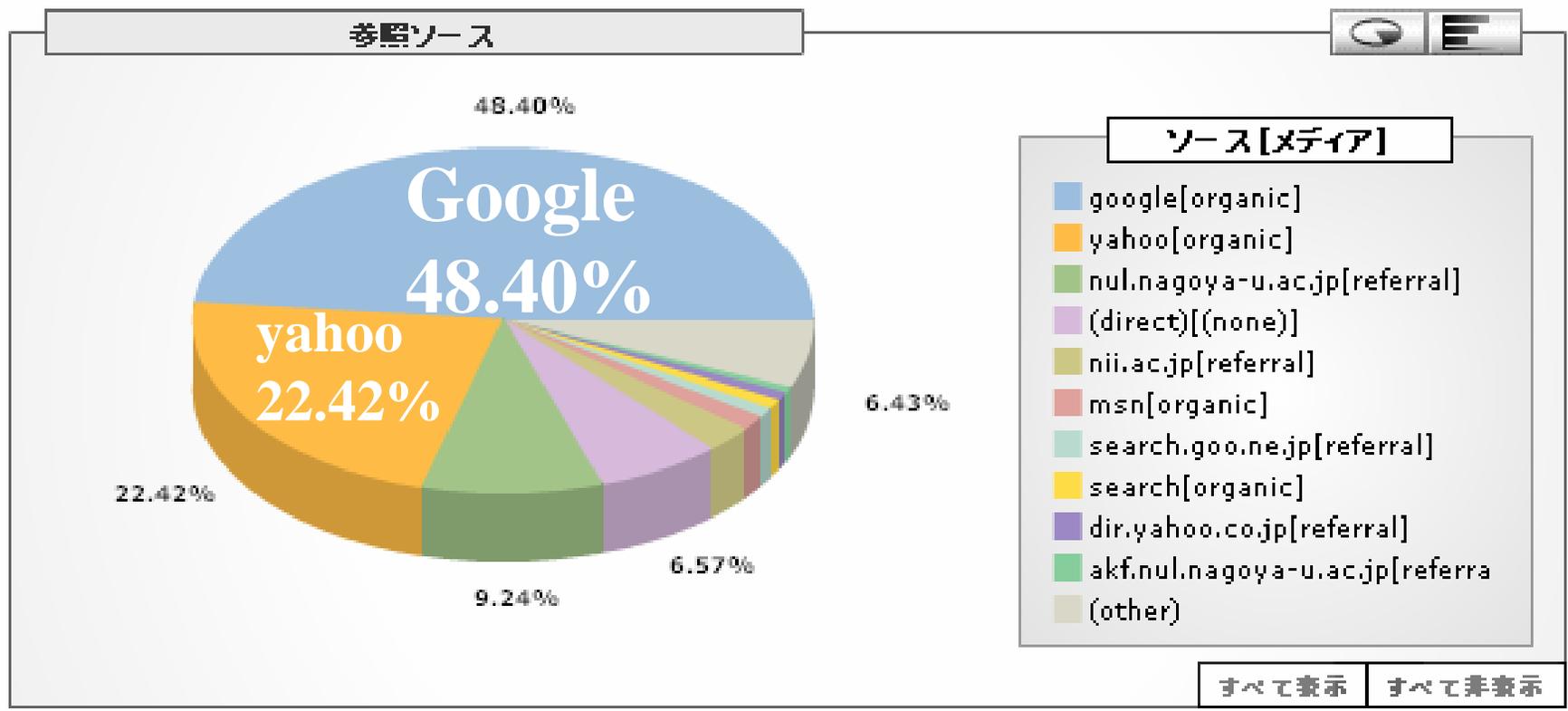
アクセスは世界中から



NAGOYA Repository 利用状況

◆ 訪問者数・経路

7割がGoogleとYahooから



NAGOYA Repository 利用状況

◆ ダウンロード数

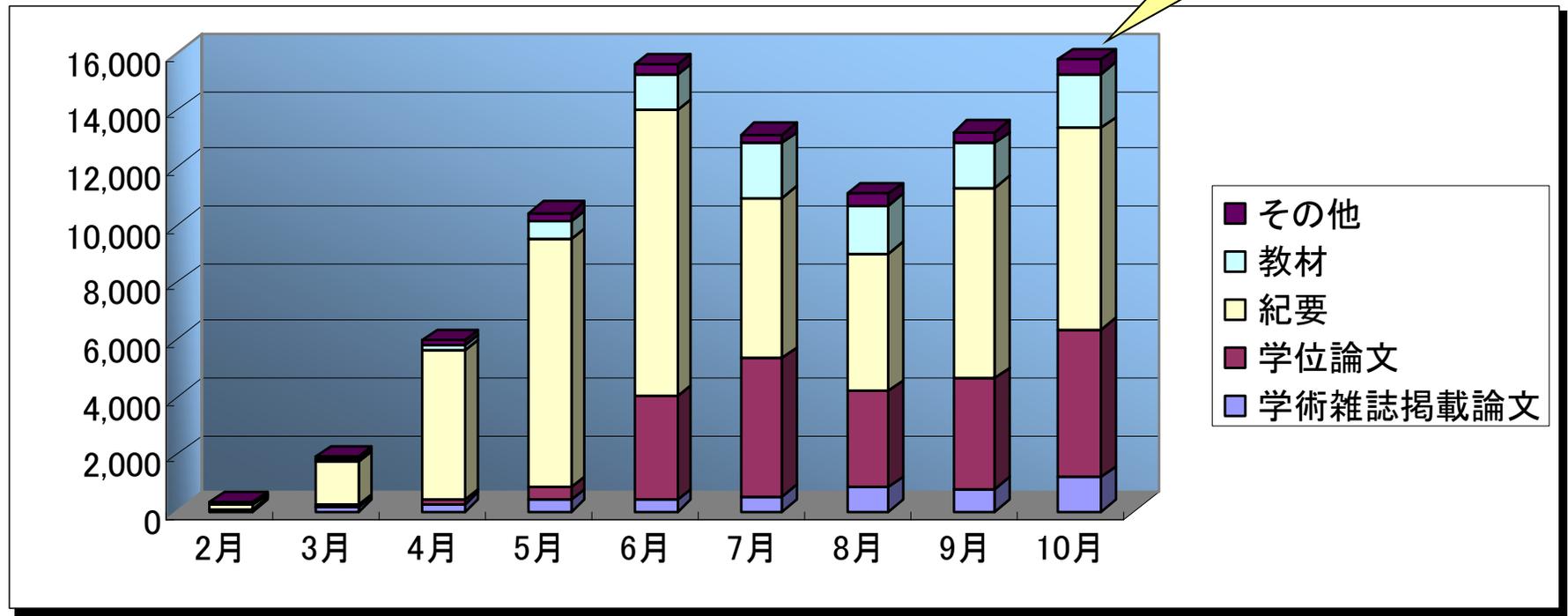
累計87,449ダウンロード

DL数	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	累計
学術雑誌 掲載論文	82	150	269	421	416	524	838	806	1,224	4,730
学位論文	3	97	143	430	3,583	4,838	3,387	3,838	5,148	21,467
紀要	147	1,496	5,196	8,638	9,985	5,586	4,782	6,683	7,039	49,552
教材	9	94	174	646	1,266	1,934	1,683	1,512	1,867	9,185
その他	58	96	159	295	333	277	407	409	481	2,515
計	299	1,933	5,941	10,430	15,583	13,159	11,097	13,248	15,759	87,449

NAGOYA Repository 利用状況

◆ ダウンロード数

10月
15,759回



NAGOYA Repository 利用状況

◆ 利用状況のまとめ

- ◆ 1日平均150人、600ページビューがある
- ◆ 1人あたり平均3.9ページを閲覧している
- ◆ 日本以外にも、東南アジア、北米、欧州から訪問
- ◆ 7割以上はGoogle / Yahoo! の検索から
- ◆ ダウンロードは毎月10,000件以上

学内の位置付け



学内の位置付け

2006年2月28日公開



公開記念講演会(2006/3/9)で
挨拶する平野名古屋大学総長



NAGOYA Repository
名古屋大学 学術機関リポジトリ
<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/>
2006.2.28
名大から世界へ
研究成果を公開

学内の位置付け

- ◆ 公開記念講演会(2006.3.9)総長挨拶
 - ◆ 名古屋大学学術機関リポジトリは教育・研究活動の知的成果を電子的に蓄積し、保存して、社会に情報発信する**大学全体の取り組み**
 - ◆ コンテンツを充実していくために、**附属図書館を中心に**学内の関連組織が協力し、そして何よりも研究者が積極的に自分の成果を公表するように心掛けることが必要

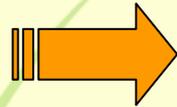
学内の位置付け

大学全体の事業

- ◆ 全学的な展開への方策
 - = 永続的な管理・運営のための方策
- ◆ 総長への説明 2005/11/29
- ◆ 教育研究評議会での説明 2005/12/20

大学にとっての意義

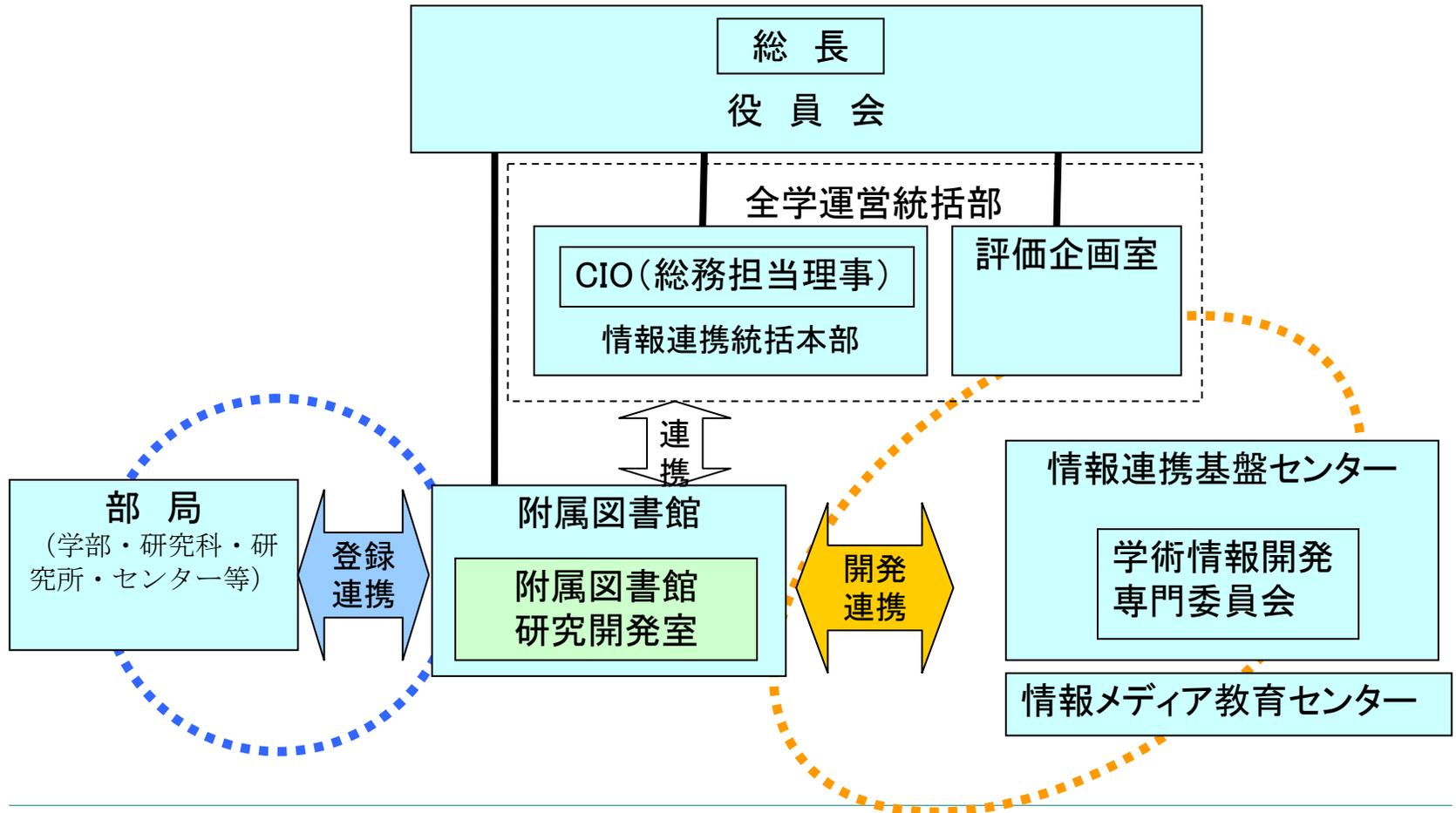
- 名古屋大学をアピールできる
- 説明責任を果たし、成果を社会に還元できる



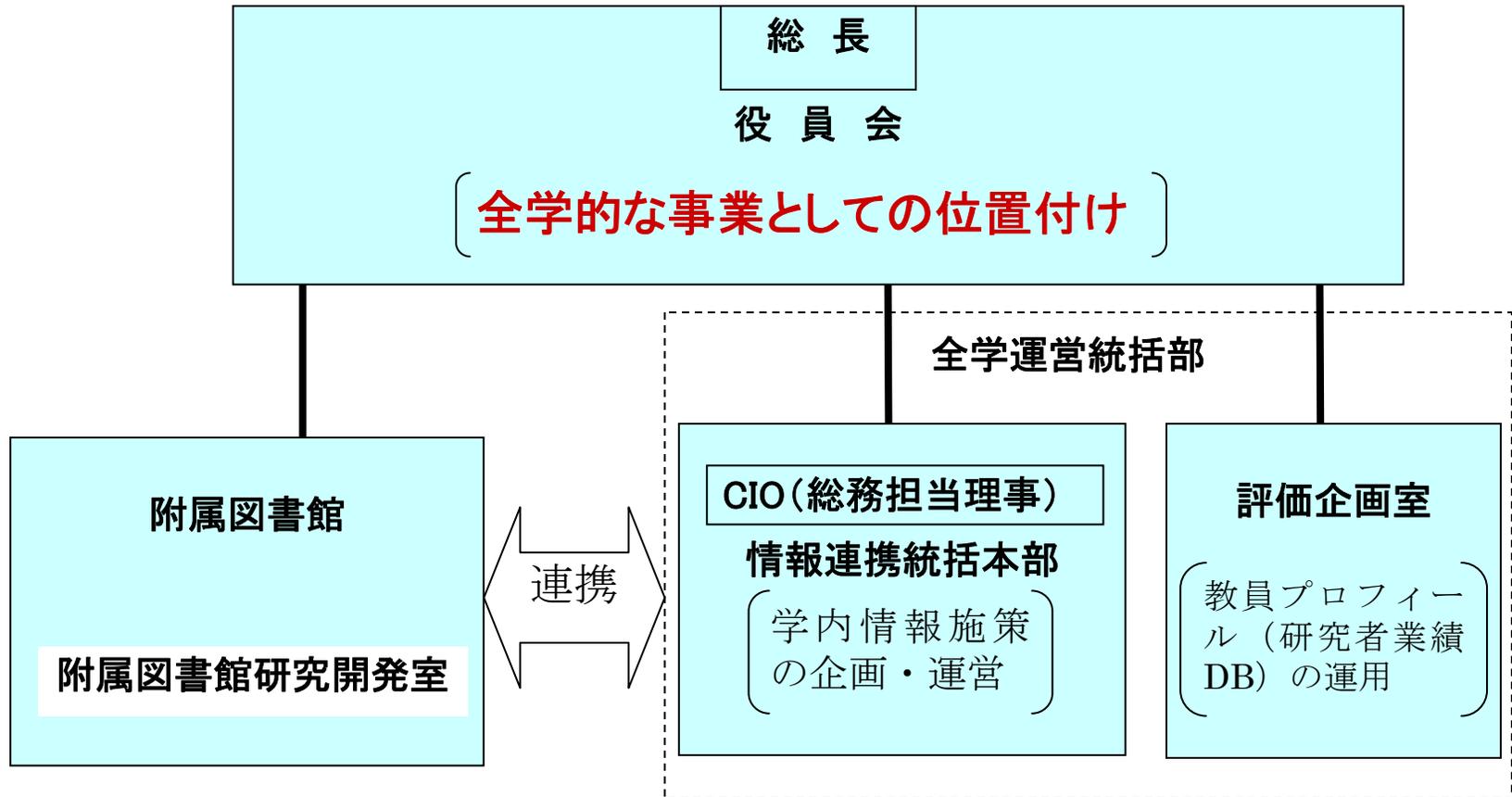
大学として取り組むべき事業



学内の位置付け(全体像)



学内の位置付け(本部等)

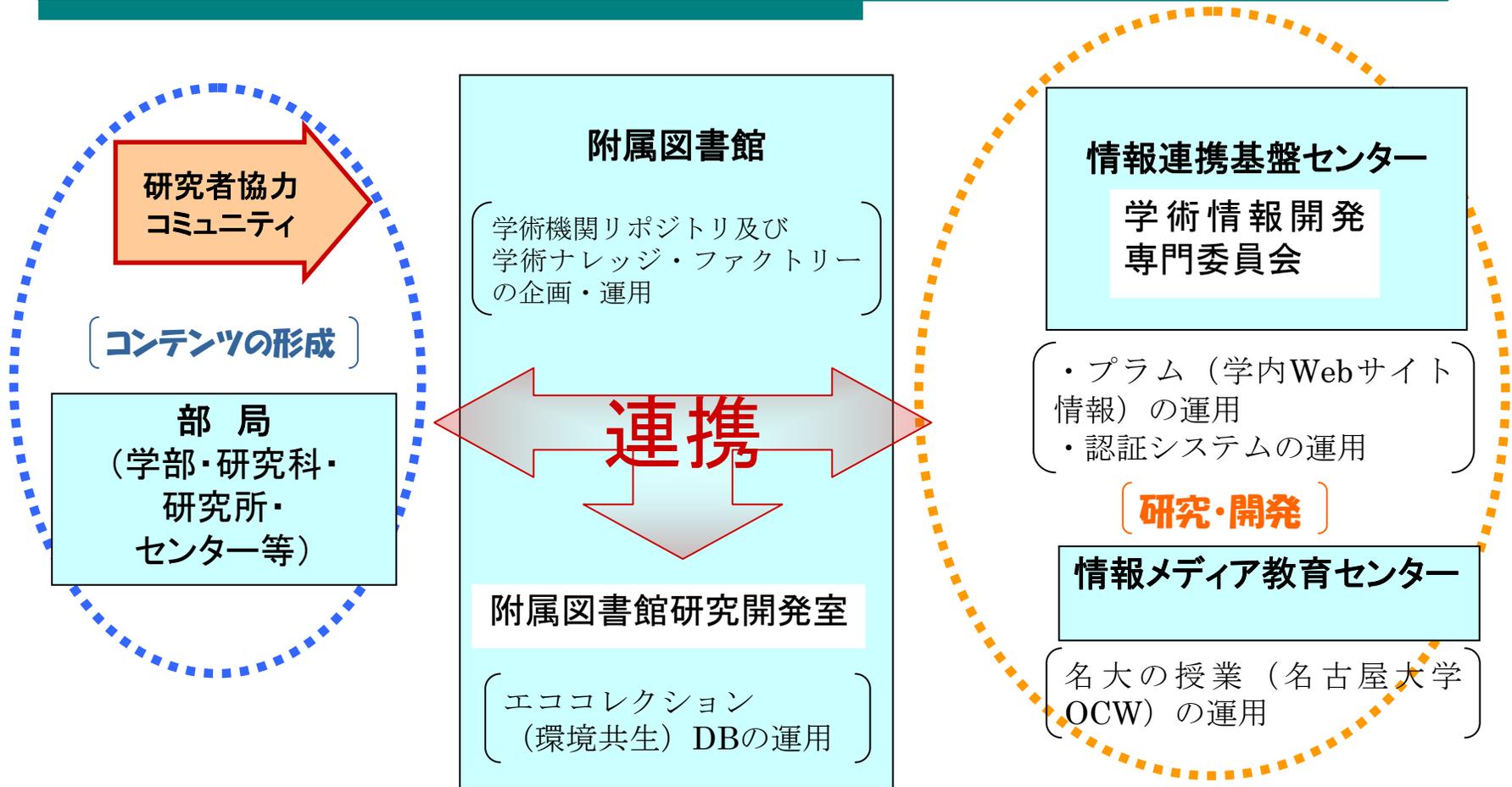


関係組織
との連携



Repository

学内関係組織との連携



学内関係組織との連携

◆ 附属図書館研究開発室

＝システム開発および運用支援

- ◆ エココレクション(環境共生)データベース
- ◆ 名古屋大学学術ナレッジファクトリー
(AKF: Academic Knowledge Factory)

学内関係組織との連携

◆情報連携基盤センター

＝システム開発・運用支援

- ◆ プラム(名古屋大学Webサイト資源検索)
- ◆ 名古屋大学ID(認証システム)

学内関係組織との連携

◆ 情報メディア教育センター
= 研究・開発

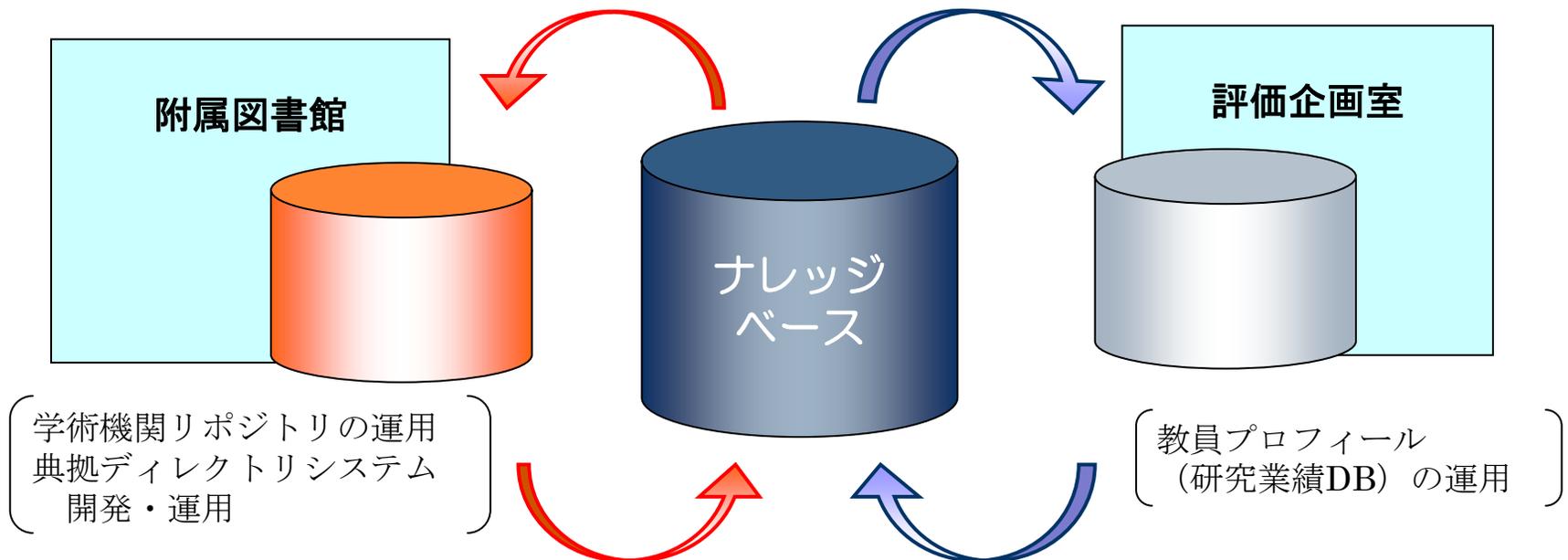
◆ 名大の授業 (Open Course Ware)
LOM = Learning Object Metadata の提供

センター長を通じ、NIME (メディア教育開発センター) 作成
の LOM データ を入手

学内関係組織との連携

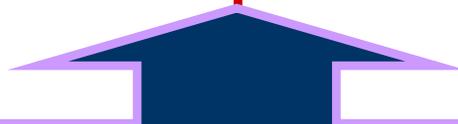
◆ 評価企画室・情報企画課

＝教員プロフィール(研究業績DB)との連携





Repository



広報
コミュニティ形成

広報活動

- ◆ 各部局での説明会を開催 **574名の教員に説明**
(2006.2.1から現在まで**19回**)
 - ◆ 教授会前の時間など20～30分間を拝借
 - ◆ **図書館長**および図書館職員がスライドで説明
 - ◆ 学術機関リポジトリとは
 - ◆ 大学・研究者・学術情報流通における意義
 - ◆ 登録依頼
 - ◆ 質疑応答

広報活動

説明会

説明会はご要望に応じて開催します。少人数のグループでも構いませんのでお問合せください。

<スケジュール>

日時	学部	場所	備考
2月 1日 (水) 13:00-13:30	経済学部・経済学研究科	2F 第一会議室	教授会の前の時間
2月 8日 (水) 13:00-13:20	文学部・文学研究科	文学部127講義室	教授会の前の時間
2月 8日 (水) 14:00-14:30	法学部・法学研究科	法学部 会議室	教授会の途中
...
5月31日 (水) 14:00-14:20	農学部・生命農学研究科	管理棟1階大会議室	教授会の前の時間
6月21日 (水) 13:30-14:00	情報科学研究科	附属図書館5階多目的室	教授会の前の時間
7月5日 (水) 15:00-	環境学研究科	環境総合館1階レクチャーホール	教授会の前の時間

第1回



第19回

http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/pub/koho/IR_setumeikai.html

問題点

- ◆ 基本的な理解は、得られるが具体的な論文などの寄贈は少ない。
- ◆ 著者最終稿がない場合も多い。
- ◆ 雑誌論文との体裁や内容の違いを気にする。
- ◆ 教員評価とからめて、一部反対意見もある。

問題点

◆ 説明会質疑より

正確を期すために一言一句たりとも刊行物と異なっているものを、研究者の良心として公開したくない。われわれの分野では、刊行されたものが業績であり、その前の段階は業績ではないという認識を持っている。

機関ごとのリポジトリや出版社の電子ジャーナルなどにより、同じ内容のPDFファイルが世界に複数できることになる。無駄ではないか。リンク情報だけではだめなのか。予算削減の中、リポジトリ構築に費用がかかるのをどう考えているのか？

研究者は1次情報を探すプロなので、リポジトリなど無尽蔵のところを探すのは企業などではないのか？ 研究者は1次情報のレファレンスを見て探すので、その大学のリポジトリを探すことはリアリティがない。

各大学でリポジトリを作るということは、あちこちで同じ作業を行うことになる。予算の無駄ではないか？

図書として出版するのが最終目標。その足かせになっては困る。

「研究者協力コミュニティ」の形成

初期協力者の例

- ◆ 自分の業績HPから機関リポジトリへ掲載を包括的に許諾してくれた
- ◆ HPでNAGOYA Repositoryに関して言及してくれた
- ◆ 所属研究科において学位論文提出時の電子ファイル同時提供を推進してくれた

「研究者協力コミュニティ」の形成

◆ 自分の業績HPから包括的に掲載を許諾

昨日は、学術機関リポジトリの説明会を開催いただきありがとうございました。趣旨に大いに賛同しました。

現在、私の論文(PDF ファイル)の一部を研究室の web サーバーで公開しています。

まずは、問題のないものから登録をお願いいたします。登録が済み次第、貴方にリンクを貼るようにしたいと思います。

「研究者協力コミュニティ」の形成

- ◆ HPでNAGOYA Repositoryに言及
業績リストにも、ハンドルでリンクを張ってくれた

August 18 (Fri.), 2006

△△学会から許可があったので以下の論文もNagoya Repositoryに掲載しました。[Near xxx xxxxxx xxxx xxxx](#) Annals of the ...

http://hdl.handle.net/2237/****

August 16 (Wed.), 2006

[業績リスト](#)にNagoya Repositoryへのリンクを入れる。

August 11 (Fri.), 2006

Nagoya Repositoryに送った論文の登録完了のお知らせ。

「〇〇〇〇」との交渉なんかもやってもらえて、そういうところは助かる。

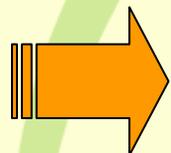
「研究者協力コミュニティ」の形成

- ◆ 機関リポジトリに対して積極的な研究者を中心とした協力コミュニティを形成することにより、コンテンツ充実を図るとともに普及理解に努める
- ◆ 数100人規模の機関リポジトリをサポートする研究者協力コミュニティを形成する



研究者にとっての意義

- 研究者が自ら研究成果（学術論文の全文）を世界に向けて発信することができる



研究情報へのアクセスが改善され、研究成果の
Visibility（視認性）が向上する

（より多くの読者を獲得できる）

物理学分野では 5.6倍 引用されたとの報告もある



データの蓄積が進めば、ある著者の著作を
一元的に検索・アクセス可能になる

研究者にとっての意義

- 大学によって、デジタル・ファイルが責任をもって次世代に継承される
- アクセスが永続的に維持される

URL: <http://hdl.handle.net/2237/4377>

NAGOYA Repository
を表す

論文固有の
番号

問題点

- ◆ 許諾・著作権の問題
 - ◆ 出版社・学会への遠慮
 - ◆ 不許諾の場合、自分の全ての業績が一元管理できるわけではない
 - ◆ 許諾の調査に時間がかかる
 - ◆ 共著者への連絡が困難な場合がある

問題点

◆ 出版社・学会への遠慮

普通、投稿論文は出版社・学会に掲載時に著作権委譲しています(Copyright transfer)。したがって、許諾すべきは著者ではなく出版社・学会だと思うのですが、それでも著者の許諾のみでよいのでしょうか？

先般お問い合わせいただいた博士論文の学術リポジトリへの登録の件ですが、本年1月にこれを著作として刊行したばかりですので、現在のところは見合わせたいと存じます(出版社への信義に反する可能性があるため)。刊行後3年ほど経過した時点で登録を考えますので、その節はよろしく願いいたします

IEEEの論文は、著作権がIEEEにあるため、著者本人が別刷りを個人的な依頼者に提供することはありますが、大学のような第3者が、学会に無断でコピー配布はできないはずで

これが出来るなら、誰もIEEEから論文別刷りを買わなくなりますからこの点を、再確認お願いします

出版社ポリシー

◆ 海外出版社の場合

◆ SHERPA

Publisher copyright policies & self-archiving

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>

◆ 出版社・学協会のWebsiteで著作権譲渡契約書の内容を調査

◆ 不明・不可の場合は、直接問い合わせ

出版社ポリシー

◆ 国内出版社の場合

◆ 国立大学図書館協会

機関リポジトリサポートページ

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/>

著作権の取扱いに関するアンケート(結果速報)

◆ 出版社・学協会Websiteの調査

◆ 不明・不可の場合は、直接問い合わせ

※出版社・学協会へのアピールの意味

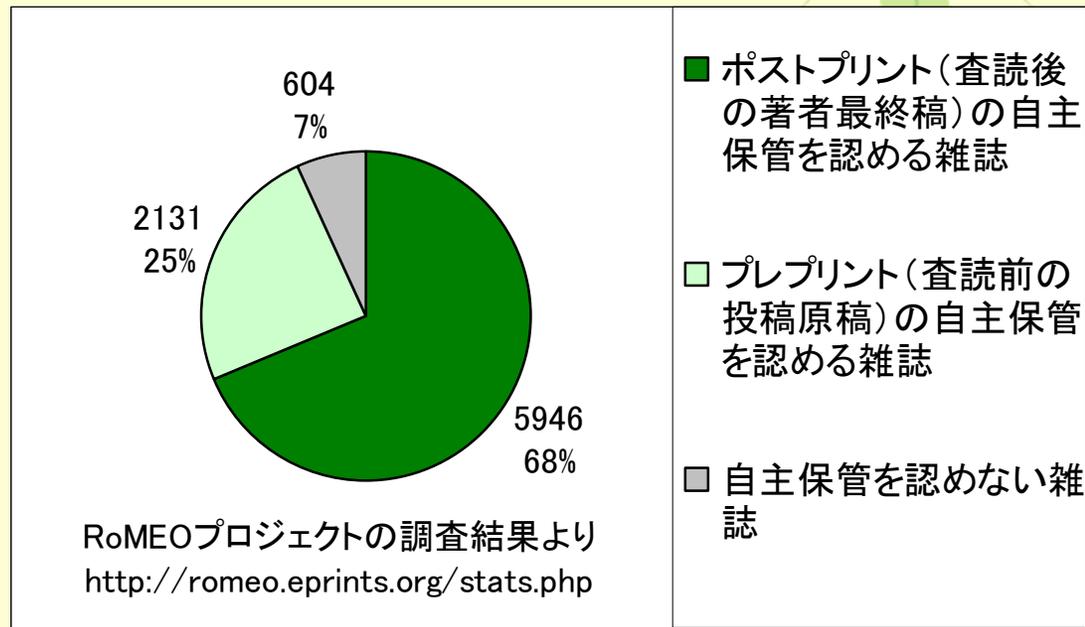
出版社ポリシー

- ◆ 国内出版社・許諾 調査・問い合わせ結果の例
 - ◆ 出版者版OK・・・
 - IEEE・AIP・科学技術情報協会・情報処理学会
 - ◆ 個別許諾依頼要・・・電子情報通信学会
 - ◆ 検討中・・・言語処理学会・日本体育学会など
 - ◆ 返事待ち・・・日本天文学会など
 - ◆ 不可・・・電気学会・精密工学会

学術機関リポジトリをめぐる動き 出版社はどう考えているか？

- 海外の学術出版社の75%、学術雑誌の93%が何らかの形（※）で自主保管を認めている。

※ 通常は著者最終稿。出版社版の公開を認めるケースもある。



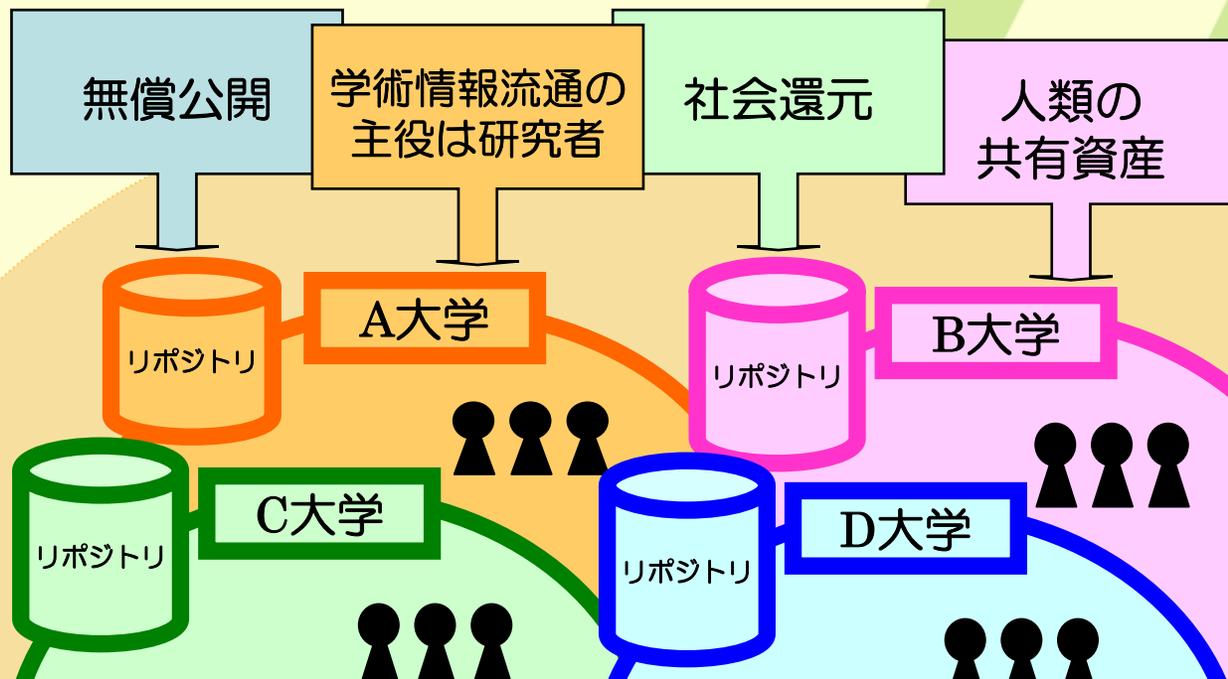
- 国内雑誌については、国立大学図書館協会が調査。現在、速報値が公開されている（検討中が多い）。
- 国際会議の会議録など、著作権の取り決めが存在しない場合は、著者の許諾だけで自主保管が可能です。

学術情報の流通状況における意義

- 商業主義的出版社が学術コミュニケーションの主導権を握っている状況

寡占
値上げ

主役は研究者



問題点

◆ まとめ

- ◆ 著作権に関する不安・疑問・誤解を取り除く
- ◆ 出版社・学協会の許諾状況について、図書館が最新情報を把握し、情報提供を行う
- ◆ 著者に替わり、問合せ等、出版社・学協会への働きかけを行う

意見・疑問・批判は、「無関心」ではない

フォローによっては強い味方になってくれるはず



Repository



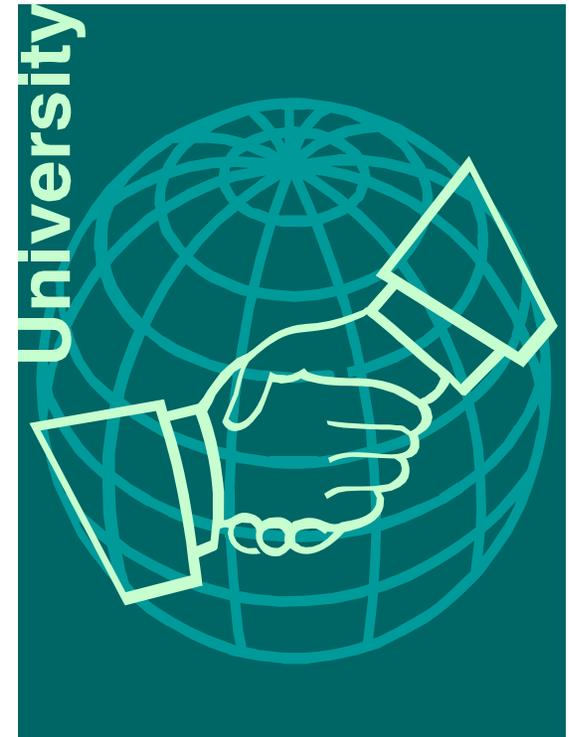
大学間連携

大学間連携

◆ CSI事業領域2: 先駆的な研究開発事業

◆ リンクリゾルバ対応システムの開発(連携事業)

北海道大学(主担当)
筑波大学・千葉大学・
九州大学・名古屋大学



大学間連携

◆ リンクリゾルバ対応システムの開発(連携事業)

AIRway (Access path to Institutional Resources via link servers)リンクサーバを通じた機関資源へのアクセス
機関リポジリがリンクリゾルバの本文アクセスターゲットとなれるよう、技術上の課題解決(メタデータ標準化、システム実装)に努め、機関リポジリの集客力の増強と収録文献のより一層の可視性向上を目指す。

2006/10/25 AIRwayメーリングリストより

>> AIRWay本番用サーバを立ち上げました。

>> <http://airway.lib.hokudai.ac.jp/airway/index.jsp>

>>

>> 現在, HUSCAPとNAGOYA Repositoryのデータが入っています。

地域連携

- ◆ 東海地区国立大学
学術機関リポジトリ実務担当者会議
 - ◆ 地域大学間の連携を模索
 - ◆ 名古屋大学の事例とノウハウを提供
 - NAGOYA Repository Labs. = 公開サイト設置
 - <http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki/>
- ◆ 東海地区CSI事業報告会
 1. 大学における電子認証基盤 9/22
 2. 大学における学術機関リポジトリ構築に向けて
 3. UPKIとグリッド 12/15

学内の位置付け

関係組織
との連携



大学間連携

広報
コミュニティ形成